



HOME

・ ・ ・ 愛しの座敷わらし ・ ・ ・

お父さん、がんばる



2012年4月28日(土) G.W. 全国公開

水谷豊 安田成美 濱田龍臣 橋本愛 草笛光子

原作/萩原浩「愛しの座敷わらし」(朝日文庫刊) 監督/和泉聖治 脚本/金子成人 音楽/他 類広

tv asahi 2012「HOME」愛しの座敷わらし製作委員会 助成/愛文化芸術振興費補助金

www.warashi.jp



Not For Sale

東北の大自然の中、
家族の絆、その再生の物語が
時に温かく、時に切なく描かれていく――。

原作：家族小説の名手・荻原浩 『明日の記憶』

主演：日本代表の“お父さん”水谷豊 『相棒』シリーズ

イントロダクション

2007年に朝日新聞紙上に連載され、好評を博した荻原浩の『愛しの座敷わらし』（朝日文庫刊）。第139回直木賞候補にも選出された同作品を、人気シリーズ「相棒」の主演＆スタッフが真心を込めて映画化！東北地方ゆかりの「座敷わらし伝承」を絡めながら、どこにでもあるサラリーマン一家の再生をユーモラスかつ感動的に描いた、極上の家族映画の誕生です。それぞれが問題を抱えバラバラだった家族が、様々な困難を乗り越え、父親を中心にひとつに結束していく姿は、広く観客の心に訴えかけます。

主人公のサラリーマン、家族の為にひた走る“お父さん”高橋晃一を演じるのは、ホームドラマへの出演が長年の夢だったと語る水谷豊。『逃がれの街』（83年）以来、これが29年ぶりの単独主演映画となる。

共演は、晃一の妻・史子に『歡喜の歌』『最後の忠臣蔵』の安田成美。長女・梓美に『告白』で一躍注目された橋本愛。梓美の弟・智也に大河ドラマ「龍馬伝」の演田龍臣。そして、認知症気味の晃一の母・澄代に、水谷と何度も共演を重ねている『犬神家の一族』『武士の家計簿』のベテラン、草笛光子。

監督は「相棒」シリーズのメイン監督であり、過去に『お日柄もよくご愁傷様』『大安に仏滅!?』といった数々の秀作ホームドラマも放ってきた名手・和泉聖治。

2012年GW東北から、全国の劇場へお届けする「座敷わらし」と「ほんとうの幸せ」――目には映らないふたつの大切なものを、是非観に来て下さい。



ストーリー

父・晃一の転勤で、東京から岩手の田舎町へと引っ越してきた高橋一家。晃一がよかれと思って選んだ新しい住まいは、なんと築200年を数える古民家だった！

東京での暮らしに馴れていた妻の史子（安田成美）は突然の田舎暮らしに不安と不満でいっぱい。老人ばかりの近所付き合いにも乗り切れない。中学2年の長女・梓美（橋本愛）にも古民家はただのボロ屋にしか見えず、転校先の学校生活を考えると心が落ち着かない。転校前の学園生活でも人間関係で悩んでばかりだったからだ。また、同居する晃一の母親・澄代（草笛光子）は田舎住まいには支障を語らないものの、最近、認知症の症状が始まりつつある様子。唯一、古民家への転居を楽しんでいる小学4年の長男・智也（演田龍臣）は、治りかけている喘息の持病を今も史子にひどく心配され、サッカーをやりたくてもやれずにいる。五者五様、どこかぎくしゃくしている一家をやんわりとまとめた見一だったが、家族の不平不満をなかなかうまく解消することはできず、異動先の支社でも馴れない営業職に悪戦苦闘の毎日だった。

そんなある日、不思議な出来事が高橋家に起こり始める。誰もいない場所で物音が聞こえたかと思えば、田舎裏の自在鉤が勝手に動いたり、掃除機のコンセントがふいに抜けたり、手鏡に見知らぬ着物姿の子どもが映ったり。どうやらこの家には東北地方の民間伝承に有名な“座敷わらし”が住んでいる！

一風変わった同居人と高橋一家の不思議な共同生活。どうなる高橋家！





「家族」がつながる場所は
きっとある。

近くにいるのに、なぜか心は遠い…
バラバラになりかけた家族を変えてくれたのは、
“不思議な同居人”



座敷わらしが幸せをお届けします。

2012年4月28日(土) G.W. 全国公開